

木曽三川「水の華」

水環境もやい研究所 川合 千代子

樹木は葉の露が水を受け止め枝が茂り、大地へと水を誘いながら育って行きます。余った水は谷～小川～河川～海へと増幅しながら流れていきます。平野へ辿り着いた水は時には、砂礫層等の地下水脈を形成し、地下水が合流した際には被圧により井戸の管や、割れ目から湧水となって地上に顔を出します。

冷たくてきれいな湧水があれば、ハリヨは喜んで生息します。時には激甚な雨量があれば、川のオーバーフローだけでなく、地下水からも激しく湧き上がります。このような現象を過去から学び、現在の動きを解りやすく整理したいと思い立ちました。幸い私は水に関して意識的に情報を集めている中、木曽川文庫の『KISSO』が専門家の執筆者により書き残されているのを感じました。創刊号から殆ど手元に有りましたが、現在百号を超えており、内容を探るのは大変です。そこで、河川流域毎・テーマ毎に分類分けし、『木曽三川便利帳』としてまとめてみました。皆さんも災害に備えて、地域の事を学んでみませんか。…災害は忘れた頃にやってきます。

『木曽三川便利帳』は、Excelで整理しています。お手元に置いてみては如何でしょうか。

※便利帳をご希望の方は事務局までお問い合わせください。



クラウド時代の今日、次のステップとして「湧水の地に生きるハリヨ」河川図のように、各地に絵柄マークで KISSO 冊子 No. 入れ「水の華」を描く予定です。完成したら読者の皆様にもご提供したいと思います。また、皆様の得意分野を活かして、情報提供もお待ちしております。流域広場を、楽しく肉付けして盛り上げませんか。今後、関連団体等の所在地もマーキングできればとも考えています。

木曽三川便利帳の内容

河川流域・テーマ分類

○木曽川流域 ○長良川流域 ○揖斐川流域 ○土岐川流域
○デレーケ関連 ○伊勢湾台風 ○地震

掲載内容の分類

○農地・森・自然 ○用水・水門・排水 ○災害
○地形・洪水・治水 ○輪中 ○歴史・文化 ○民話

※KISSO は、創刊号からの全てが国土交通省 木曽川下流河川事務所のホームページで閲覧できます。

<http://www.cbr.mlit.go.jp/kisokaryu/KISSO/index.html>

facebook ページはこちらからアクセス!
<https://www.facebook.com/kisosanseneconet/>



ニュース情報を募集しています!

木曽三川流域生態系ネットワーク推進協議会では、木曽三川流域におけるエコロジカル・ネットワーク形成に関連する地域の取り組み情報をニュースレターにまとめて発信しており、生物多様性の保全や生きものを活用した地域づくりなど、流域のフレッシュな情報を募集しています。下記お問い合わせ先まで情報をお寄せください。(なお、紙面の都合等で取材・掲載できない場合もありますこと、予めご了承ください。)

木曽三川流域生態系ネットワーク推進協議会(事務局:国土交通省木曽川上流河川事務所)とは、川とともに育まれてきた流域の自然や文化を保全・活用し、地域の魅力を向上させるとともに、人と自然・人と人との絆を深めることを目的とし、流域の自治体・河川管理者・有識者によって、平成26年度に設立されました。

本協議会では、木曽三川流域において、自然環境を保全・再生・創出していく「生態系ネットワーク形成」に関連する活動を行う(または賛同する)、地域のさまざまな団体等に参加していただく「木曽三川流域エコネット応援団」を結成しています。応援団の皆さんの活動に関する情報共有を図ることにより、地域の交流・協働を促進し、取り組みのさらなる発展を目指していきます。

「木曽三川流域生態系ネットワーク」ホームページ (<http://www.cbr.mlit.go.jp/kisojo/econet/index.html>)



木曽三川流域生態系ネットワーク推進協議会事務局: 国土交通省 木曽川上流河川事務所 河川環境課 (岐阜県岐阜市忠節町5-1)

【問い合わせ先(R1事務局窓口)】 cbr-kisojo@mlit.go.jp / tel 058-251-1321 / fax 058-251-4301

木曽三川流域

ECONET NEWS

木曽三川流域 エコネット応援団
ニュースレター【第8号】

2019.9.25

◎本ニュースレターは、木曽三川流域におけるエコロジカル・ネットワーク形成に関連する地域の取り組み情報を発信するものです◎

今年も暑かった夏休み、エコネット応援団の皆さんなどにより、木曽三川流域ではさまざまな自然観察・環境学習の行事が開催されていました。木曽川での行事を中心に、いくつか取材させていただきましたが、どこでも子どもたちの楽しそうな声が聞かれました。これらの情報やその他掲載しきれなかったものを含め、Facebook ページ(裏面参照)でいち早く紹介していますので、ぜひそちらもご覧ください。

■2019年8月4日(日)〔一宮市尾西歴史民俗資料館〕

今年も木曽川のミズベに勇者たちが集まりました

ミズベリング138「夏休み集まれ!木曽川ミズベの勇者たち2019」



▲当日は夏らしい天気なのが、木曽川ワンドの魚とりで汗をかきました

今年もミズベリング138の取り組みのひとつとして、夏の木曽川で自然体験を楽しむ行事が開催されました(主催 一宮市公園緑地課)。

この日、ミズベの勇者となったのは、一宮市の親子26名で、木曽川の自然についてクイズを交えて学んだり、タモ網を手に木曽川ワンドに入って魚類の調査体験を行いました。

専門家による調査(定置網をつかった採捕)も見学し、この日はおよそ20種類の魚類を観察しました(おいしそうなニホンウナギのほか、タモロコ、ツチフキ、ナマズ、ミナミメダカ、トウカイヨシノボリ、タイリクバラタナゴなどなど)。ワンドのなかだけでこんなに多くの種類がみられることに、皆さん驚かれていたようでした。



▲とれた魚は名前を調べて勉強します。見分けるのはむづかしいですね

参加者の方からは「木曽川には思ったよりたくさん生き物がすんでいることを知りました」、「種類分けは難しかったですが、教えてもらえてよかったです」、「人間と川との関わりについて考える機会となった」など、うれしい感想が聞かれました。



▲木曽川の自然(ワンドとはどんな環境)について学習しました



▲とれた魚のリストをつくって勉強しました。思ったよりたくさん種類がみられました



こんな大きなニホンウナギも観察しました(専門の調査員さんが採捕したもの)。きちんと木曽川に戻してあげたそうです

■2019年8月9日(金)〔養老町〕

人の暮らしのすぐそばにハリヨがみられる地域を次代につなげて～子どもたちによる水路の環境調査が実施されました



▲子どもたちによる水路の生きもの調査

夏の暑い日、養老町内の水路で環境調査が実施されました。地域の地域資源保全会が主催する子ども会の夏休みイベントで、今年で5年目となるこの調査には、広幡小学校や大垣養老高校の皆さんが参加し、にぎやかな声がかかるなか、魚捕りや生きもの観察が行われていました。

この日の調査場所は、民家や水田のあいだを流れる水路で、たくさんのハリヨのほか、ドジョウやフナ類、さまざまな水生昆虫などが確認されました。この地域は自噴水も多く、今でも生活水としても使われているとのこと。その湧水が水路を満たすことで、人びとの暮らしのすぐそばにハリヨのすみきれいな水辺が受け継がれていることが実感できました。

生きもの調査のあとには、簡易水質調査が行われました。水路内の水がきれいだったことはもちろんですが、この地域の水は硬水であることを教えていただきました。日本ではめずらしい特徴で、かつてはこの水でつくった氷を東京都心へ卸していたこともあったそうです。

人と湧水とのつながり、さらにそこにすみ生きものについて、楽しく学んだ貴重な時間でした。



▲たくさんのハリヨがみられました



▲バックテストを用いた水路の水質しらべ。保存会の皆さんが指導されていました

■2019年8月17日(土)〔羽島市防災ステーション〕 羽島市イタセンパラサポーターも募集中！ 第6回「イタセンパラ塾」が開催されました



▲魚類調査の見学も。何がとれているでしょうか？

今年で第6回目となる「羽島市 イタセンパラ塾」が開催され、羽島市民の皆さん約24名が希少魚イタセンパラについて学びました。

イタセンパラの保護増殖に取り組む岐阜県水産研究所の方からお話（二枚貝の置き方など飼育のコツも！）を聞いたほか、夏空のもと、主な生息場である木曾川ワンドの視察や調査体験（魚類の観察や簡易水質調査）にも汗を流しました。「産卵管の長さは？」「いくつぐらい卵を産むの？」「木曾川に危険な魚類はいるの？」などなど、たくさんの質問が挙がっており、子どもたちが熱心に学んでいるようすが印象的でした。

なお、羽島市では現在、「羽島市イタセンパラサポーター制度」を立ち上げ、市内を中心にイタセンパラの普及・啓発・保全等のボランティア参加者を募集されています。イタセンパラ塾当日も、サポーターさんが受付から缶バッジ作成指導など大活躍されていました。ご興味のある方、ぜひ応募してみてください。

（参加方法や参加資格などの詳細は羽島市ホームページをご確認ください。）

<https://www.city.hashima.lg.jp/0000010922.html>

■2019年7月21日(日)〔岐阜市文化センター〕

高校生らが日頃の成果を発表 「市民と高校生の生物多様性」が開催されました

高校生が日ごろの活動成果について自由に発表できる場を提供したいとの想いから企画され、今年で3年目を迎える「市民と高校生の生物多様性」が開催されました（主催：木曾三川フォーラム）。

イベントでは、岐阜高等学校、加賀野名水保存会、大垣東高等学校理科数科ハリヨ班、木曾川高等学校総合実務部（以上、発表順）による活動発表と、向井貴彦先生（岐阜大学地域科学部准教授）がコーディネーターを務めるパネルディスカッションが行われました。

岐阜高校からは、食べることによる外来種駆除の手法について発表がありました。ブルーギルやオオクチバスの唐揚げは簡単で美味しい、ブルーギルのナンブラーが味はよいが匂いがきつい（周りから苦情がなければおすすめしたい）とのこと。

木曾川高校総合実務部からは、一宮市内でのイタセンパラの認知度は若年層ほど減少する傾向がみられることをアンケート調査により把握し、イタセンパラかるたを活用した若年層への普及啓発に取り組んでいることなどが紹介されました。

大垣東高校理科数科ハリヨ班からは、今年で14年目を迎える海津市内でのハリヨ調査について、生息個体数を推定する精度向上に必要な条件を特定し、より正確な実態把握が図られているといった研究成果が報告されました。

加賀野名水保存会からは、「さまざまな思考を持った人がいなければ、人は生き残れないのではないかと。多くのことを学び、思考の多様性を維持してほしい」といった高校生へのエールが送られました。

パネルディスカッションでは、外来種問題に関する意見交換などが行われ、高校生らも自分の意見を述べていました。皆さんの活動は、生物調査をはじめ、広報や利活用とそれぞれ特徴があり勉強になりました。今後の活躍にも期待したいと思います。



▲木曾川高校総合実務部の皆さんの発表。「私たちにできること」として、イタセンパラ保護の必要性を地域に伝える活動に注力しているようすを発表してくれました

イタセンパラの泳ぐ姿を みてみませんか？



一般公開中のイタセンパラ水そう展示施設のご紹介です。

現在、環境省のイタセンパラ保護事業において、イタセンパラの系統保存等を目的として保護増殖された個体の一部が、一宮市・羽島市を中心に、小中高等学校、民間企業、自治体施設などで飼育されています。

絶滅の危機に瀕するイタセンパラ保護の普及啓発等を目的とした取り組みで、一部施設の水そうは一般公開されています。見に行くなら、これからの季節（秋）がおすすめで、繁殖期にあたる9月以降、鮮やかな婚姻色に色づいたオス個体がみられるかもしれません。



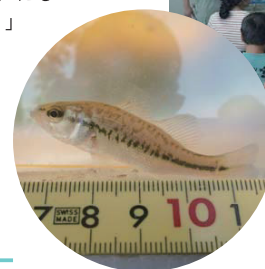
イタセンパラ一般公開中の施設等 (2019年9月25日時点)

- ◎一宮市尾西歴史民俗資料館（一宮市起字下町 211）
- ◎木曾川上流河川事務所（岐阜市忠節町 5-1）
- ◎羽島市立図書館（羽島市竹鼻町丸の内 6-2）
- ◎尾西信用金庫本店（一宮市筆屋 1-4-3）
- ◎三井住友信託銀行一宮支店（一宮市栄 3-7-15）

※見学できるのは各施設・店舗の営業時間内に限ります（無料）。イタセンパラの状態によっては展示終了となっている場合もありますので、予めご了承ください。



▲イタセンパラ以外にも、羽島市でみられる魚類について観察したり、生態について教えてもらいました



◀写真は外来魚オオクチバス。この日に観察できた魚類はイチモンジタナゴやカナヒラなどを含む約15種類でした